

令和4年度第1回千代田区生物多様性推進会議 議事要旨

【開催概要】

1. 開催日時
令和4年11月10日(木) 14時00分～16時00分
2. 開催場所・方法
千代田区役所8階 第3・4区議会委員会室 ※WEB会議と会場の併用
3. 出席委員(8名)
亀山委員(座長)、加藤委員(副座長)、須田委員、城委員、大井委員、坂口委員、積田委員、二戸委員
4. 欠席委員(4名)
竹内委員、中村委員、青山委員、印出井委員
5. 事務局及び関係者(8名)
笛木環境政策課長、松下企画調査係長、山浦事業推進担当係長、只野公害指導係長、落合エネルギー対策係長、株式会社地域環境計画(3名)

【次第】

1. 開会
2. 議題 「ちよだ生物多様性推進プランの見直しについて」
 - (1) 推進プラン見直しスケジュール
 - (2) モニタリング調査結果報告
 - (3) 区政モニター結果報告
 - (4) 現行プランの評価
 - (5) 推進プラン見直しの方向性(案)
3. 閉会

【配付資料】

- 次第
- 委員名簿
- (資料1) 推進プラン見直しスケジュール
- (資料2) モニタリング調査結果(春～夏)
- (資料3-1) 区政モニターについて
- (資料3-2) 区政モニター結果を踏まえた見直しの方向性案

- (資料4) 現行プランの評価一覧(案)
- (資料5) 推進プラン見直しの方向性案
- (参考) 環境省・東京都参考資料
- (参考) 国内外の動向
- (参考) 令和3年度第1回千代田区生物多様性推進会議議事要旨

【議事要旨】

1. 開会

2. 議事

(1) 推進プラン見直しスケジュール

- 事務局より資料1の説明
※委員から特に意見等なし

(2) モニタリング調査結果報告

- 事務局より資料2の説明

<大井委員>

シマトネリコについて、街路樹などでよく植えられている一方で外来種として課題にもなっている。千代田区としてコントロールしているのか。

<事務局>

現行の推進プラン策定時に行ったモニタリング調査ではシマトネリコの実生は確認されなかった。今回の調査では実生が確認されている。

<亀山委員>

千代田区では対応について考えているか。

<事務局>

特に具体的対応は予定していない。

<亀山委員>

シマトネリコは相当多く植栽されているので、東京都全体で実生も増えてきているだろう。多く植栽されていて種子散布も増えている。トウネズミモチと同様に何か対応が必要。緑化指導時に、使わないように伝えるなどが考えられ

る。

<事務局>

対応を検討する。

<須田委員>

ここ最近、シマトネリコの実生がよく見られるようになってきている。在来の生態系に影響をおよぼすような侵略性をもつ植物は植えない方がよい。シマトネリコはその兆候がある。実生のうちなら簡単に抜き取ることができる。

確認種リストでは面白い結果が示されている。千代田区を代表する昆虫としてコサナエが挙げられる。コサナエは皇居に個体群がいて、日比谷公園や北の丸公園などでもみられる。東京都の区部では千代田区でしか見られない種。また、ヒメウラナミジャノメがこれほどあちこちに、普通に見られる場所は区部ではおそらく千代田区のみだろう。外苑濠の草刈りが順繰りに行われ、どこかに生息できる環境が常にある。地味なチョウだが千代田区を代表する種。ウバタマムシの生息が確認されたのは、皇居外苑を中心にマツがあることによる。衰弱木にすみつくため、本種がいなくなならない程度にマツの管理をしていけるとよい。これらを「千代田区を代表する生きもの」として地域戦略改定版のコラムに示せるとよいのではないか。

<亀山委員>

ヘイケボタルが牛ヶ淵、桔梗濠にもいたが、3年ほど前から確認されていない。最近はどうか。

<二戸委員>

環境省では毎年生息調査をしているが、おととし以来、牛ヶ淵では確認されていない状況。原因は特定できていない。引き続きモニタリングしながら、今後の対応を考えていく。桔梗濠についても同じ状況。

<亀山委員>

桔梗濠の水質はあまりよくない。

<須田委員>

昨年、濠プロジェクトの一環で大手濠にて調査をしたときには、ヘイケボタルの餌となるヒメタニシは殻だけで生きているものは確認できなかった。餌資源がクラッシュしているのではないか。

<亀山委員>

4年前に皇居前のライトアップに関する検討があり、明るさを1ルクス以下にするように進言した。LEDに変わって明るくなったかもしれない。いずれにせよ、何とかならないか。

<須田委員>

区部では最後の在来種なので対策が必要。

<二戸委員>

環境省では、いろいろなかたちで対策を考えている。多摩動物園では域外保全もしている。取組みが進んできたらこの場にて進捗状況のご報告等情報共有できればと思う。

<須田委員>

都内全域でもみてもゲンジボタルよりヘイケボタルは少なく、確認数も減っている。

<二戸委員>

ホタル等の生物保全活動は、環境省の取組みだけではなかなか難しく、地域の方々等千代田区にも協力をお願いしたい。

<亀山委員>

ヘイケボタルは千代田区の宝でもある。ぜひ千代田区も協力して対策をすすめてほしい。

<積田委員>

鳥類調査の結果、日比谷公園でチュウサギの確認は貴重だ。アオサギもいるはず。コゲラもずいぶん増えたように思う。冬になれば、木の葉も落ち観察数も増すだろう。鳥は移動してしまうので、他地域とも連携して調査できれば全体を把握することができる。

<事務局>

資料2の表は重要種のみを示したものである。調査結果としては日比谷公園ではアオサギも確認されている。コゲラも各所で確認されている。

<坂口委員>

新しい重要種が確認されているが、なにか施策としての働きかけがあってこの結果になったのか。

<事務局>

千代田区が管理しているのは公園やお濠で、特に施策として何かに取り組んだということはない。ホテルニューオータニも同様だろう。自然にこうなったということだと思う。

<坂口委員>

千代田区は皇居を中心とした場所にあるので、豊かになったのはよいが、特に施策がないのは少しもったいない。千代田区の緑が周辺<港区、新宿区、文京区など>とつながり、連携して豊かな地域になる、美しいストーリーになるとよい。周辺の緑地とも連携して皇居の自然を広げていく、という考えがよい。その意味で、新たに調査地点として加えた小さな公園の存在も重要。今は千代田区の中の議論ということではあるが、生物多様性はネットワークによって広がっていく特徴があるので、小さなオープンスペースや街路樹空間を活かして周辺地域ともつなげていくような取組み、ネットワークとしてとらえていく視点があるともっと良い。そのポテンシャル、役割が千代田区にはある。

<亀山委員>

現行の推進プランにも書かれていることであるし、大事な視点である。

<加藤委員>

ネットワークというのはかなり大変なこと。小金井公園で調査した際には、公園境界から 200m離れた住宅地では都市鳥しか見られなかった。住宅地の場合、公園境界から数十mくらいまでしかコゲラなどは出てこない。住宅地を横切って鳥が移動する状況を期待するなら、質の高い、緑の多い住宅地にしていけないといけない。重要種としてイソヒヨドリが確認されているが、本来は海岸付近にいる種で、千代田区は本来の生息環境ではない。最近になって都市で分布を拡げつつある鳥といえる種。

<事務局>

イソヒヨドリは低地の街中でも見られている。千代田区では神田川で確認されており、ごくまれに川づたいに海から上がってきているのではないか。

(3) 区政モニター結果報告

- 事務局より資料3-1、資料3-2の説明

<加藤委員>

区政モニター100名はどのように選定しているのか。

<事務局>

広報紙やホームページで一般公募している。

<加藤委員>

紙媒体を見て応募してきた人が多い場合、情報発信方法で紙媒体と回答する人が多いという結果になっている可能性がある。紙媒体が有効ということだけではなく、若い層にはデジタルでの発信、中高年層には紙媒体など考えていく必要がある。

<積田委員>

広報千代田で募集の知らせを見て応募したが、ホームページ上でも見られる。年齢も勘案して選定しているとの説明を受けた。回答者の年齢に偏りはないと思う。

(4) 現行プランの評価

- 事務局より資料4の説明

<坂口委員>

ビオトープづくりを進める、小中学校で実践していく場ができてくるのはとても良いことである。作るとは割と簡単だが、その後の維持管理運営が課題にもなってくる。難しいのは、先生が忙しくて管理までなかなか手が回らないこと。ソフト面の強化が重要で、地域と一緒に関わっていく、関わる人達も一緒に生物多様性を学ぶ、というソフトも一緒に考えていく体制がよい。私が地域コーディネーターとして関わっている富士見小学校では現状では屋上庭園があまり使われていないが、今後、地域も関わって使っていくことをやりましょう、ということをお話している。

<事務局>

ビオトープづくりを主に公園と小中学校で取り組んでいるが、やはり維持管理が不十分ということはある。継続して取り組む中で、地域も交えて取り組ん

でいくことを考えていきたい。

<坂口委員>

区政アンケートでは、回答者に10代の人がいなかった。10代の子供たちは楽しみながら体験・学習できる世代。その世代に意識的に働きかけていくことが重要。

<城委員>

ちよだ生物多様性大賞の応募件数が少ないことに対して周知方法を検討するところがあるが、そもそも応募できる状況にある人・団体が少ないのではないか。すそ野を広げていくことを目指しているのであれば、違うかたちでアプローチしていくことを考えた方がよいのではないか。例えば、中小企業の人たちを集めて中小企業ができることを先生にお話ししていただくなど、取組みしやすくサポートをするなどが考えられる。

<事務局>

ちよだ生物多様性大賞については、様々な団体から応募いただいているが、応募件数が伸びないのは活動できる場が少ない、活動できる場が限られている、という理由があるのかもしれない。ただし個人、小学生などの活動の応募もある。活動に対して千代田区として何か助成できるような支援も考えていきたい。

<亀山委員>

応募件数が少なくなっているのではなく、最初から多くはない。だが、ちよだ生物多様性大賞の取組みはそれなりに意味をもっていると思う。

<須田委員>

たとえば生きものモニター制度をつくり、生きものを見てもらえる人、考えられる人に活動してもらおう。そこからちよだ生物多様性大賞に応募できるような取組みに発展していくボトムアップの考えもある。

<加藤委員>

「ビオトープ」について千代田区としてはどのようなものを考えているか。

<事務局>

水辺や緑地があり、あまり手を加えず維持していくようなものと考えている。

<加藤委員>

ビオトープの管理でよく心配されることは水辺をつくと管理が大変になるところ。小学校で管理できなくなる理由の多くは、水辺の管理があるから。生物の生息空間ということであれば、水辺がなくても、草地があるだけでも機能する。「ビオトープ」をことさらに作らなくても、学校敷地内で生物の生息に適した場所をほかの形でも用意できないか。少なくとも、池やせせらぎがなければならぬ、という発想はなくした方がよい。

<亀山委員>

ビオトープというと、一般に水辺と草地のセットととらえられていることが多いが、生きものにとってなるべく良い場所があるとよい、ということかと思う。

<須田委員>

例えば皇居を核として千代田区内全体の生きものネットワークをつくることを考える際には、どこでも同じようなものをつくるのではなく、どこに何をつくるのがよいのか、どういった種に来てほしいのか、土地に適した方法はなにか、など、全体を見て考えていくのが大切。保全型、再生型、創造型といったタイプ分けもあり、千代田区ではおそらく創造型のビオトープをつくる場面が多いのではないかと。

(5) 推進プラン見直しの方向性（案）

- 事務局より資料5の説明

<亀山委員>

カタカナ言葉が多い。こういう言葉を使わずに読み取れる、説明できる表現が必要ではないか。広く理解されるよう、地域戦略ではもっと平易な言葉、簡単に言えばこういうこと、としていく方がよい。

<須田委員>

まさに同感である。たとえばSDGsに書いてあることには取り組むけれど、書いてないことはやらない、といった原理主義的なことにもなっている。千代田区なら、こういうことやったらいいいよね、ということを示していけるとよい。

<大井委員>

示された方向性案は具体的な内容になっていて、良い方向での見直しになっている。2030年目標については手遅れにならないように、マイルストーンを決めて進められるようなプランを期待している。

<加藤委員>

具体的施策案が数多く示されているが、相互に関係していることが多くある。空間の話と人の組織の話に関連付けて考えていく必要がある。相関・連関図が必要。剪定枝や落葉の堆肥化の施策案は、学習・体験にも使える、さらにはそこが生きものを観察できる場にもなるという効果がある。具体的には、例えば学校の中に畑などを設けて、公園等の管理で発生した剪定枝や落葉で作った堆肥を使う、なども考えられる。

<亀山委員>

相互の関係をみていくと、方向性の案はもっと簡単にまとめられるように思う。

<坂口委員>

ビジョンが大事。言葉ではなくても、暮らし、生活のイメージでどんなものを描けるか、イメージをつくり、その暮らし・社会を実現するために、企業、区民がどんなことをやったらいいのか、バックキャストिंगで捉えて、具体的イメージを描くことが大切。

<積田委員>

近くの「とちの木通り」では、トチノキの葉が多く落ちてくる。集めたものは活用の場所がなく、ゴミとして出さざるをえない。落ち葉を集めて堆肥化できるような場所を、千代田区で用意してもらえればありがたい。

<亀山委員>

郊外の都市農地に落ち葉や堆肥を提供するなども考えられる。江戸時代には江戸周辺の農地でつくった野菜を江戸に売りに出て、引き換えに下肥えを持ち帰って畑の肥しに使う関係があった。

<須田委員>

濠プロジェクトでは、外苑濠に生えているヒシを山梨に提供している。山梨で生産された野菜を使った料理を提供する都内のレストランもある。千代田区内だけでなく、友好都市など他地域と相互に連携して資源循環する仕組みを考

えるのがよい。

3. 閉会

- 事務局より
 - ・モニタリング調査については秋の調査を実施済みであるが、その結果を次回の推進会議で報告する予定。
 - ・地域戦略は千代田区のものであるので、千代田区らしい言葉を使い、区民でも理解しやすい表現内容でプラン改定を考えていきたい。
 - ・行政と企業、区民それぞれの役割も踏まえて改定のたたきを次回の推進会議で示したい。
 - ・次回の推進会議は来年2～3月ごろに開催予定である。

以上